

2022年1月5日第112回BABOK研究会議事録

PM学会中部支部

IIBA日本支部

1. 日時

2022年1月5日(木) 19:00～21:00

2. 場所

Zoom(Web会議システム)

3. 出席者

(敬称略順不同)

近藤、山本、中村、大喜、浜口、河村、鈴木(記) 以上7名

4. 議題

(1)2022年度活動方針

(2)20日のIIBAセミナーシナリオの検討

(3)その他連絡・相談事項など

5. 議事

(1)2022年度活動方針

2022年度の活動方針について、近藤座長から、2021年度活動を引き続き進めてはどうかとの提案があった。当初2021年度の活動方針としては、事例研究を通してBABOKを学ぶことが主題であったが、事例の課題対応が主になり、BABOKとの対応を整理できなかった。2022年度はBABOKの視点から課題を整理し、さらにCLD作成や、SDIによるモデル化まで進めたい。

ひとまず、20日のセミナーシナリオの検討もあるため、この議題は2月度に再度議論する。

(2)20日のIIBAセミナーシナリオの検討

今月20日、IIBAセミナーがあり、近藤座長より当研究会の2021年度活動成果を発表いただく。発表資料の原稿に沿って、シナリオを検討した。

発表にあたって昨年度の活動を振り返ってみると、例えば中村氏が事業戦略の展開に見える化するために使った、ロジックツリーは、BABOK(R3) 知識エリア7:「要求アナリシスとデザイン定義」の、タスク:「要求アーキテクチャを定義する」に該当する。セミナーは、こうしたBABOKの観点で説明してゆきたい。

ここからは資料の章立てに沿って議論

製造業の課題

「経営は号令だけで自ら成長戦略の立案に責任をもつ認識がない。」「マネジメントは経験で身につける物という考えに固執。」という課題がある。過去の成功体験から脱却できないのではないのか。

製造業の課題の本質

答えのある技術論は得意だが、答えを探さなければならない抽象論は苦手。技術で答えを出す方法論で高度経済成長時代を勝ち抜いた製造業は、そこから脱脚できないのではないのか。経済の成長は止まり、新たな答えを見つけ出さなければならない時代になっている。

製造業、アプローチの検討

事例で中村氏は業務を「定常業務」と「プロジェクト」に分類した。ここでいうプロジェクトは成長戦略のためのプロジェクトであり、ビジネス目標を達成するためのもの。中村氏が問題解決にロジックツリーを用いたのは最適なツールと考えたため。

ソリューションの実践と結果

経営方針と現場でのオペレーションが繋がっていない事がわかった。

製造業、解決の障害

いくつか上げられているが「定常業務」というのも企業にとっては試行錯誤の積み上げ、成果であり、利益を生む重要な業務であるため、肯定的に取り扱うことが必要ではないか。

その他

資料には、これに加えて、CLDとSDの説明資料を加えたい。

(3) その他連絡・相談事項など

20日に実施されるIIBAセミナーについては、申し込みのページ、及び割引コードをSlack及びFaceBookに貼り、メールで展開した。

6. 次回予定

(1) 日程

2月度BABOK研究会は、2月2日(第一水曜日)、19:00~21:00

(2) 場所

ZOOM会議室(URLなどは開催案内メールでお知らせします)

(3) 議題

IIBAセミナー結果報告、2022年度活動方針

7. 成果物

(1) IIBAセミナー発表資料原稿(近藤)

8. その他

とくになし

—以上—